

日本に最初の作業療法士養成校が欧米からの作業療法士教員の指導のもとに誕生したのは今から 50 年前の 1963 年 7 月であった。3 年後の 1966 年 9 月、22 名の日本人初の作業療法士をもって職能団体日本作業療法士協会が発足した。その日本が今や、作業療法士数は 6 万人を超え、養成校も 177 校となり量的には「OT 先進国」の仲間入りを果たした。が一方では、専門職としての「質の問題」や「国民の作業療法（士）の認知度の低さ」等多くの課題を抱えている。

片や、日本は周知の如く少子化が進み、超高齢社会をひた走っており、発達障害や認知症の方々への介入等で作業療法（士）への期待は高まり、出番も多くなって来ているのも事実である。

本講演のねらいは、こうした日本の「作業療法事情」をその歴史的進展と挑戦の変遷から今日の課題、そして未来への期待を概観することによって、ひとつ目はアジア諸国等のこれから少子高齢社会の予想される國の OT の方々への参考になること、2 つ目は我が国の若き OT 達への示唆になること、3 つ目は同様の課題に挑戦する国々の OT 諸氏との意見交換をすること、である。

ところで、「日本における作業療法の進展と挑戦」を語る視点は色々あるが、ここでは、演者がその創立以来ほぼ 50 年間活動を続けてきた職能団体である日本作業療法士協会の軌跡を辿ることで明らかにしたい。また演者自身現在取り組んでいる教育研究社会貢献活動も示しながら以下の内容でお話していきたい。

1 日本作業療法士協会の進展と挑戦の軌跡を 6 期に分け辿っていく。

便宜上 OT 誕生前後、1960 年代、1970 年代、1980 年代、1990 年代、2000 年代から現在までの 6 期である。

2 OT の現時点の確認

地域包括ケアの時代、保健医療福祉の連携協働の時代の OT の「今」

3 OT の未来へのメッセージ

統合医療、再生医療、臓器移植、ロボット工学、脳科学、神経リハ等先端研究にも「対象者の生活機能の再建と QOL の向上」の立場から貢献することを期待する、など